

学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

1-1 理念・目的

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(理念・目的等) ○ センター等の理念・目的・教育目標とその適切性	・現状 学部間共通外国語教育運営委員会は、『『個』を強くする大学』という本学の教育理念に基づき、国際感覚を持った「個」を育成するための、会話科目を中心とした学部を超えて横断的に履修できる外国語科目を設置している。 英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話に加え、ロシア語・スペイン語・ギリシア語・ラテン語・イタリア語・朝鮮語・アラビア語など、学部には設置されていない多彩な外国語科目を設置し、学生に多様な学習機会を提供している。クラスはレベル別であり、主にネイティブスピーカーを中心とした講師による授業が展開されており、実践的な会話力・語学力を修得できる。 留学生対象の日本語科目も設置されている。また、英・独・仏の3語種については「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」を開講しており、留学・就職の際指標となる資格取得を目標とした科目の充実を図っている。 ・長所 学部横断で設置されている科目であるため、学生に多様な学習機会を提供することができている。例えば、本学学生であれば3キャンパスのうちいずれの地区でも受講可能である。クラスはレベル別で、現在のレベル及び到達目標をシラバスにて明記しており、学生はレベルや到達目標に合わせて科目を選択できる。講師陣はネイティブスピーカーを中心に配置しているほか、AV設備の充実にも力を入れており、学生が自然な外国語に触れる機会を多く与えられる環境を整えている。 ・問題点 現在は会話科目を中心に科目を設置しているが、学生・時代のニーズにあった形での科目・科目数・授業形態・履修ルールについて随時検討していく必要がある。また、学習効果測定の方法についても常に見直しをしていく必要がある。	●開講科目の充実、履修ルールについて委員会または委員会の下ワーキンググループにおいて、常時検討しニーズに合わせた授業を展開する。学部間共通外国語では、会話科目を中心に科目を設置しているが、近年の学生の履修者数を見て、2009年度は履修者の多い科目はコマを増やし、履修者の少ない科目は設置場所を変更したり、レベルを変更する事で学生が履修しやすい授業形態にする。
○ センター等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性	・現状 学部間共通外国語の理念については大学ホームページにて広く周知している。 「学部間共通シラバス」を作成し、全学生に配布している。また、新学期ガイダンス時に設置科目の紹介や履修ルールの説明を行い、周知を図っている。学部を超えて横断的に履修できる科目である事を学生により知らしめるため、2008年度にはMeiji Language Program というニックネームをつけた。 ・長所	

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	・問題点	
(理念・目的等の検証) ・センター等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況	・現状 全教員対象の授業評価アンケートを実施するほか、夏期・春期に開催される集中講座において学生を対象にアンケートを実施している。結果は講座運営母体である「学部間共通外国語教育運営委員会」にて報告され、次回講座開催時の改善点として引き継いでいる。 ・長所 集中講座後のアンケートは、学生のニーズを適切に把握する事ができるため、改善点を把握しやすい。	

2 教育研究組織

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ センターなどの組織構成と理念・目的等との関連	・現状 運営委員会は、学長が委嘱する次の委員をもって組織する。 (1) 教務部長 (2) 副教務部長 (3) 各学部教授会から推薦された英語科目担当の専任教員各1名 (4) 各学部教授会から推薦された外国語(英語を除く。)科目担当の専任教員のうちから各学部各1名又は2名 運営委員会は、必要に応じて分科委員会を置くことができる。 必要に応じて「授業改善委員会」を設置している。 この分科会は各語種代表で構成される。 ・問題点 運営委員会委員に学部間共通外国語科目を担当している教員が少ないため、授業の実情など現場の意見がすぐには反映されにくい。	・運営母体である学部間共通外国語教育運営委員会の委員は全て専任教員である。授業担当者と運営委員会委員の交流の場を設定し、問題点は逐次対応できるよう連携を深める。 なお、毎年、4月1日に授業担当者と、運営委員会の委員が懇談会を開いて、現状の確認をしている。 ●履修者が許容範囲以上に多かった科目や、履修者が少ない科目については、2009年度、開講地区の変更により、学生が受けやすい環境を整える。
・センター等の組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況	・現状 ・長所 ・問題点	

3 教育内容・方法等

①教育課程等

センター等の教育課程に関する目標		
学部間共通外国語科目は各学部に設置されている外国語科目をサポートしつつ、さらにより多面的な語学能力の向上させることを目的とする		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 教育目標を実現するための教育課程の体系性	・現状 「学部間共通外国語科目」について、会話科目を中心に科目を開設しているが、学部に設置されていないラテン語・ギリシア語・アラビア語等も設置しており、学生に多様な学習機会を提供している。 学部横断で設置されている科目であるため、本学学生であれば3キャンパスのうちいずれの地区でも受講可能である。クラスはレベル別に開設されており、学生は実力にあったレベルの授業を受講することで、高い学習効果を得ることができる。 ネイティブスピーカーを中心とした講師陣を配置しており、学生のレベルや到達目標に合わせた科目を設置している。 2008年度は約140クラスが開設された。 長期休暇中の特別講座として、夏季休暇中には和泉校舎にて、「集中講座」が英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話の4語種が開講されるほか、協定校(カナダ・ヨーク大、イギリス・シェフィールド大、ケンブリッジ大)への短期語学研修留学も実施される。春期休暇中には清里セミナーハウスにて英会話の合宿の集中講座が開講されており2008年度は夏期集中講座には4語種で約200人、春期集中講座では約60名が参加した。 資格試験への対応として「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」の3科目を設置しており、留学や就職の際に必要なスキルを修得できる科目を設置している。 これらの科目は学部によっては卒業要件単位に算入することが可能である。 ・長所 学部横断で設置されている科目であるため、学部、校舎を超えて学生に多様な学習機会を提供している。 集中講座についてはネイティブスピーカーを講師とし、少人数で集中的に行われる授業により、短期間で学習効果をあげることが可能である。	
高・大の接続に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するために必要な導入教育の実施状況	・現状 付属校である明治高校に設置されている「自主選択講座」に中国語講師派遣の依頼を受け、週1回2コマ開講している。 ・長所 高等教育への導入としての外国語教育を提供している。	

授業形態と単位に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における、その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性	・現状 本学は 2004 年度より半期制を実施しており、学部間共通外国語科目も大学のルールに則り半期 1 単位とする授業を開講している。長期休暇中に開講する集中講座については、授業時間を 60 時間確保し 2 単位を与えている。 ・長所 集中講座については授業時間数の確保を厳格に行っている。	
開設授業科目における専・兼比率に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 全授業科目中、専任教員が担当する授業科目とその割合 ○ 兼任教員等の教育課程への関与の状況	・現状 2008 年度に開講された 140 クラスのうち、専任教員が担当したのは 7 クラス。学部間共通外国語は会話科目を中心に設置しているため、ネイティブスピーカーである外国人兼任講師が授業の大半を担当している。 ・長所 ネイティブスピーカーによる自然な外国語に触れる機会を作ること、高い教育効果が期待される。 ・問題点 兼任講師陣に対し本学の教育理念のさらなる徹底が必要。	今後もネイティブスピーカーを中心とした講師陣の充実を図る。 教育理念の徹底について、現在は新年度始めに担当講師を対象に説明会を開催しているが、この会合の内容を充実させることで対応する。
社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮に関する目的・目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
・ 社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する教育課程編成上、教育指導上の配慮	・現状 外国人留学生を対象に日本語科目を 3 科目設置している。 ・長所 ・問題点	
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 学生に対する履修指導の適切性 ○ 留年者に対する教育上の措置の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

・科目等履修生，聴講生等に対する教育指導上の配慮の適切性	・現状 学部間共通外国語は学部に所属する科目等履修生の受講を認めている。 ・長所 科目等履修生などの非正規生にも多様な外国語教育の機会を与えている。	
--	---	--

4 学生の受け入れ(略)

5 学生生活(略)

6 研究環境(略)

7 社会貢献(略)

8 教員組織(略)

9 事務組織

事務組織に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(事務組織の構成) ○ 事務組織の構成と人員配置	・現状 学部間共通外国語の授業は、駿河台、和泉、生田の3地区で授業を行なっているので担当者も3地区の教育運営グループがあたっている。委員会の運営、授業計画は駿河台の教育運営グループが担当している。 ・長所 各地区の担当者がいるので、現状を把握しやすい。 ・問題点	
(事務組織と教学組織との関係) ○ 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況 ○ 大学運営における、事務組織と教学組織との有機的一体性を確保させる方途の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

(事務組織の役割) ○ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性 ○ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性 ○ 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況 ○ 大学運営を経営面から支えるような事務機能の確立状況	・現状 ・長所 ・問題点	
(スタッフ・ディベロップメント(SD)) ○ 事務職員の研修機会の確保の状況とその有効性 ・ 事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

14 自己点検・評価

自己点検・評価に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(自己点検・評価) ○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性 ○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性	・現状 全教員対象の授業評価アンケートを実施するほか、夏期・春期に開講される集中講座において学生を対象にアンケートを実施している。結果は講座運営母体である「学部間共通外国語教育運営委員会」にて報告され、次回講座開講時の改善点として引き継いでいる。 ・長所 学生のニーズを直ちに適切に把握することができるため、改善点を把握しやすい。 ・問題点 アンケート質問項目について、常に見直しをし、逐次改善を図ることが必要である。	●アンケート項目について、適切な質問項目の設定等、講座実施前にその都度点検を行う。
(自己点検・評価に対する学外者によ	・現状	

る検証) ○ 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するための措置の適切性 ・ 外部評価を行う際の、外部評価者の選任手続の適切性 ・ 外部評価結果の活用状況	・長所 ・問題点	
(大学に対する社会的評価等) ・センター等の社会的評価の活用状況 ・ 自大学の特色や「活力」の検証状況	・現状 ・長所 ・問題点	
(大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応) ○ 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応	・現状 本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧告等があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口として、学部等自己点検・評価委員会に対応することになっている。 ・長所 ・問題点	